

クローズアップ



朝倉 堅五 社長

略歴 1949年愛知県豊橋市生まれ。74年3月東京大学大学院工学系研究科土木工学修士課程修了。博士(工学)。74年4月三菱総合研究所入社、2002年5月エコ&エナジー社長。11年3月よりテイコク代表取締役社長

1954年の創業から2014年に60周年を迎える建設コンサルタントのテイコク(岐阜市)。中期ビジョンで目標とする21年度に社員300人、売り上げ50億円を達成させるため、空間情報などを扱う新規の3部門を設けたほか、女性によるコンサルティング分野開拓などに乗り出す。「斬新な技術力で勝負する」と話す朝倉堅五社長に今後の事業展開などについて聞いた。

(聞き手は岐阜支局＝藤田理)

テイコク(岐阜市) 朝倉社長に聞く

—— 大幅な組織改革を行いましたか。

「従来からのコア業務であるコンサルティング・測量計測・環境調査の3部門に加え、新規にニッチ産業を開拓する空間情報・社会システム・スマートシティ推進の3センターを配置する組織体系に改革した。同時に職場環境の改善にも取り組んでおり、給与水準の改定や、若い人材を登用して部長ポストを増やした。現場に大きな裁量権を与え、トップダウンのガバナンス方式を分散したインテリジェントターミナル型に変更し、中央は

全体の調整役を行う。目標を決めた後は、お互いに切磋琢磨(せっさたくま)し競争してもらう」

—— 10月の岐阜駅前への本社移転など事業所再編、海外進出については。

「本社移転の負担は大きかった

組織改革など新たなスタート

目指すは総合ソリューション企業

が、会社をステップアップさせるために良い職場環境が必要だと判断した。一流の人材を集めるにも、

「東京オリンピック開催までの数年間は安全・安心・セキュリティがキーワードになるだろう。この分野では食の安全、福祉、医療関係などに興味がある。例えば女性によるコンサルティングの分

—— 今後の事業展開について

「これは、斬新な技術力で勝負する。それも、後追いではなく、他と違う発想やアイデアを生み出す技術者集団になってほしい。発想、アイデアは気がつかなければゼロだ。地方企業が失敗する最大の理由は、営業力の強化だけで勝負すること。官公庁からの委託、海外への進出、異分野参入など、どんな仕事に対しても顧客ニーズに立脚した提案ができる総合ソリューション企業を目指しており、社員には岐阜をベースに世界を相手に戦う人材になってほしい」

新人募集についても本社所在地から生まれる求心力は大きく、すでに効果が出ている。市内の事業所は2カ所に再編統合。県外では新たに東北支店(仙台市)や東京支店(千代田区)を開設し、現業スタッフを配置した。今後、名古屋支社と尾張営業所の統合、各支店・支店の現業スタッフの充実を図りたい。さらに海外への進出を検討している」

野開拓を一つのテーマにしたい。そのためには託児所などの整備も必要だと考える。今後も建設コンサルタントの市場は大きくは伸びないだろう。右肩上がりの事業計画は立てにくい、何が当たるかわからない不透明な時代だからこそ、たくさんのアンテナを立てる必要がある。これから70、80周年を迎えるため、どんな新分野を組み合わせればよいのかを模索している」

—— 目指す会社の姿